令和５年度第６回　感染症発生動向調査協議会

令和５年９月２０日

月番：馬場　尚志

１　前月の感染症発生動向について（2023 年第 31 週～35 週・8 月）

＜全数把握対象疾患＞

・　結核は毎週報告あり（本年累計の対前年同期比 84.4%）、発症者の中心は高齢者ではあるものの、40 歳未満で 9 例（結核 4 例、潜在性結核感染症 5 例）の報告あり。

・　腸管出血性大腸菌感染症は 5 例報告あり（本年累計の対前年同期比 57.7%）。

・　レジオネラ症は 4 例報告あり（本年累計の対前年同期比 113.5%）。

・　劇症型溶血性レンサ球菌感染症、侵襲性インフルエンザ菌感染症、侵襲性肺炎球菌感染症がそれぞれ１例、１例、2 例報告あり、本年累計の対前年同期比はそれぞれ 300%、500%、140%である。

・　梅毒は 16 例報告あり（本年累計の対前年同期比 122.4%）。うち 9 例が早期顕症で（本年累計の対前年同期比 113.1%）、男性 5 例、女性 4 例であった。無症候性 6 例（男性 5 例、女性 1 例）は、いずれも 60 歳未満であった。

・　百日咳が 1 例報告あり、0 歳児（ワクチン接種歴 3 回）であった。

＜定点把握対象疾患＞

・　新型コロナウイルス感染症は、第 33 週に定点あたりの報告数が 31.0 と 30 を超え、その後も 20 台と高いレベルで推移している。

・　インフルエンザは、第 34 週に定点あたりの報告数が 1.2 と 1 を超え、その後も増加傾向である。

・　RS ウイルス感染症や、昨年と比較し大きな流行がみられた A 群溶血性レンサ球菌咽頭炎、ヘルパンギーナは減少傾向である。

・　東濃圏域で第 35 週に流行性耳下腺炎の増加がみられた。

・　西濃圏域および中濃圏域で第 35 週にマイコプラズマ肺炎の増加がみられた。

・　性感染症定点疾患は、いずれも前年とほぼ同様の発生状況である。

・　病原体検出情報においては、A 型（H3）を中心にインフルエンザの検出が続いている。

・

２　検討すべき課題

・　COVID-19 の定点調査からの県民・市民への情報提供・フィードバックについて（注意報、警報）

・　インフルエンザの定点調査（値）の解釈について（流行入り、終息基準値の意義）

（事務局から）

・　インフルエンザ患者報告数の増加について

３　情報提供すべき事項

・　今冬の感染症流行に対する備えについて

４　情報提供（月番委員専門分野から）

・　高齢者対象 RS ウイルスワクチン（商品名：アレックスビー、GSK）

　　－　厚生労働省　薬事・食品衛生審議会医薬品第二部会（8 月 28 日）で、製造販売承認を了承

５　その他（感染症対策推進課から）

・　急性脳炎等に係る実態把握について

・　デング熱に関する注意喚起等について

・　インフルエンザに関する注意喚起について

・　インフルエンザ様疾患による休校等の措置について（今シーズン初）

＜検討結果＞